

情報Aの役割とその変化 ～2年間の授業を振り返って～

埼玉県 小松原学園小松原高等学校教諭 吉村 時郎

1. はじめに

本校は埼玉県の南部、さいたま市にある、生徒総数1300名、普通科、工業科を併設する総合高校です。工業科には情報技術コースがあり、PC普及以前の大型機の時代からコンピュータ教育に取り組んできました。平成13年の教科発足時から現在にかけて、情報技術コースの教員が中心となり、情報教育の充実にあたっています。平成13年度から平成15年度にかけては文部科学省の教育研究開発事業 - 第3次 - 『次世代ITを活用した未来型教育開発事業』（以下IT3）実践校に選ばれ、研究活動を行いました。

情報の授業は、情報Aを普通科の全生徒が1年で2単位、工業科が3年で2単位履修します。ここでは、本校が情報Aを選択した理由と、授業の実践例、評価方法などを報告します。まったくの手探りではじめた普通教科情報なので、先生方の参考になることは少ないと思いますが、ご容赦ください。

2. 情報Aを選んだ理由

情報Aを選択した理由は、本校が前出の『IT3』実践校に選ばれたことが大きく影響しています。そのIT3の目指すものとは以下のとおりです。

既存教科の授業でのIT活用

e-learning教材研究

TV会議システムによる遠隔地とのコミュニケーション

本校は3つの項目の中で、『既存教科でのIT活用』を重点目標とし、全教科をあげて取り組むことにしました。つまり、数学でExcelを使用す

る、国語表現で画像を使う、レポートをWordで作成し、提出はメールに添付する等、普通教科でITを活用することを目標にしました。そこで、1年生の時にアプリケーションスキルを中心に情報リテラシーを習得させ、2年生以降は各教科でIT機器を利用してもらう計画を立てました（図1）。

こうした事情で情報A、B、Cを比べ、最も基礎的EUC（End User Computing）がバランスよく学習できる情報Aを選びました。教科書は実教出版を採用し、副読本として同社の30時間シリーズの『Office2000』と『プレゼンテーション+PowerPoint』を併用しました。実教出版を採用した理由はこの豊富な副読本によるところが大きいです。本校のようにスキル教育に重点を置く場合、30時間シリーズは魅力でした。

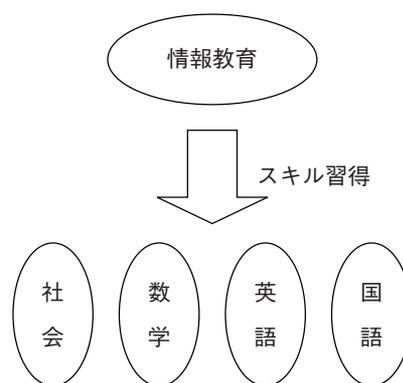


図1

3. 実際に授業を行って

普通科1年生は2単位、年間70時間を座学3分の1、実習3分の2で組み立てました。1学期は校内のインターネット運用規則を理解させること

を目的として、情報モラル関係から授業をしました。授業計画表は表1のとおりです。

表1

1学期	座学	ネットワークの活用 マルチメディアの活用
	実習	タッチタイピング, Word
2学期	座学	メディアの発達と仕組み
	実習	Excel
3学期	実習	Excel, PowerPoint, メール

教科情報がスタートした当初は入学してくる生徒のスキルがバラバラで、キーボードを打つ速度が極端に遅い生徒もいましたが、いまは平均的に打てるようになりました。タッチタイピングも当初の目的を達成したので、近いうちにははずす予定です。

教科書で扱うサービスの内容と、実際の授業で活用したサービスが最も違ったのはメールの章です。教科書ではOS付属のOutlookなどのpopメールが主体ですが、本校のように生徒個別にアカウントを用意していない場合、複数で1つのアカウントを共有することになります。これではプライベートツールというメール本来の魅力はなくなり、プライバシーの保護もままなりません。

そこで、今回はウェブを利用しました。現在は無料で高性能のウェブメールサービスが提供され、どれも魅力的です。クライアントに依存しないのでインターネットの環境があればどこでも送受信可能で、セキュリティ対策も万全です。本校では、MSN, goo, excite, などからYahooメールを利用しました。ただし、広告を切れないので、教育用としては若干問題が残ります。

評価は、定期試験は行わず、座学は小テスト、実習は課題の完成度、授業態度で評価しました。

4. 教科書の役割

座学では教科書と学習ノートを使い、講義と確認を繰り返すようにしました。実習は副読本の『Office2000』を活用しました。30時間シリーズは、実習テキストとしては量、内容ともに適当で、本校では教科情報以外でも利用しています。また、



写真1 授業風景

年間計画もテキストの内容でシラバスを立てやすく、現在も役に立っています。

5. 本校のPC設備

コンピュータ施設は教育用と業務用と2系統あり、セキュリティ強化の面からそれぞれが独立しています。

表2

教育用LANシステム構成図			
Server	OS	Win2000server	2台
	Apr	Net Support School	
Client	OS	Win2000pro	150台
		Win XP	50台
	Apr	Office2000, 2003	200台
		Flash	50台
		フォトショップ	50台

6. まとめと反省

当初、他教科へのIT普及を目的として、スキル教育に偏重しがちだった本校の情報Aですが、2年を経てその役割を変えようとしています。次の項目は、過去2年間、研究授業として実行されたITを活用した普通教科の授業です。

【国語】「国語表現」映像と俳句創作

【英語】「英語」翻訳ツールの活用と海外ホームページ検索

【理科】「化学 B」元素記号の由来をインターネットで検索

【音楽】「音楽」フリー作曲ソフト『さくら』を用いた作曲授業

残念ながら、現在も授業で活用されているものはありません。つまり、教員にとってITは使い勝

手の良いものとして認められていないのです。しかし、生徒を取り巻く現状はどうでしょうか。情報犯罪やIT企業の隆盛など、IT情報への知識や情報リテラシーの必要性は逆に高まっています。情報教育は、原点の姿に立ち返り、独自の目的と目標を持つ教科として教育にあたりたいと考えています。

7. 今後の課題

今後は、以下のような事項について対応を考えています。

大学受験への対応

J検等、資格試験への対応

特に、**情報倫理**に関しては緊急の課題と考えています。入学試験で導入する大学が増えており、本校では座学の時間を確保することで対応する予定です。また、**メディアリテラシー**に関しては、現在採用しているワープロ検定や表計算検定から、パソコン検定、J検などへの変更を考えています。

8. 教員研修

教員の実力をつけるため、年間数回外部講師を招いて、教員IT研修会（自由参加）を開き、教員自身のスキルアップをはかっています（写真2）。研修の内容は、メール概論、インターネット概論、Flash、ホームページビルダー、パワーポイント、ネットセキュリティ概論などです。



写真2 教育研修風景

◎じっきょうの情報科教材「情報 books plus!」シリーズ

日々進展する情報化社会に氾濫する様々な情報をより良く収集し、自ら発信するために欠かせない知識を解説したサブテキスト。高校生にもわかりやすい具体例、問題（課題）で構成しています。

Webより関連データをダウンロードできます

インターネット社会を生きるための**情報倫理**
メディアリテラシー
コンピュータのしくみ
初歩からのネットワーク

定価400円／A5／112p

定価400円／A5／ 80p

定価480円／A5／108p

定価500円／A5／120p

